



●カラピナとは…… 登山に使われる金属製の輪です。カラピナが登山のロープをしっかりと繋ぎ、支えるように、この消費者情報が必要な情報を消費者に、消費者の声を事業者・行政に繋ぐ役目を果たすようにと名付けました。

特定非営利活動法人 新潟県消費者協会 平成29年度通常総会 設立50周年記念式典・記念講演会



50周年式辞

会長 長谷川 かよ子

若葉萌えたつ本日の佳き日に新潟県知事米山隆一様をはじめ、多数の御来賓をお迎えして、新潟県消費者協会設立50周年記念式典を盛大に挙行できますことを、心から御礼申し上げます。

本協会は、昭和42年、初代会長大井ヒデ先生のご支援をいただき、全国で11番目の比較的早い時期に設立されました。

以来、半世紀にわたり、着実な活動を続けて参りました。この間、社会は大きく変わり、少子高齢化、高度情報化、国際化などにより、私たちを取り巻く消費生活も年々、多様化、複雑化しております。

こうした中で、消費者協会は先輩たちの築かれたあゆみを大切にしながら、新しい時代に対応し、各地域において活発な協会活動を展開し、県民に信頼される団体となるよう努力して参りました。

これからますます国際社会が緊張を高め、政治経済の不安定要因が増す中において、私たち消費者は、消費者としての義務を果たし、権利を守りつつ、自立した「消費者市民社会の構築に向けて」歩み続けていきたいと思っております。

今後とも、関係各位の変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

目次

- 平成 29 年度新潟県消費者協会通常総会報告 …………… 2P
- NEWS（新発田市消費者協会設立 他）…………… 3P
- 新潟県消費者協会 設立 50 周年記念事業報告 …………… 4・5P
- 地区だより「今年度の活動目標・抱負」…………… 6P
- 消費者トラブルキーワード「放送終了後、30分以内限定!!」…………… 7P
- 「食品ロス」削減に取り組みましょう！～外食編～…………… 8P

平成 29 年度 新潟県消費者協会 通常総会報告

平成 29 年 4 月 25 日(火) 万代シルバーホテルにおいて通常総会を開催し、下記の 3 つの議案について可決承認されました。(詳細は総会資料をご覧ください)

総会后、引き続き設立 50 周年記念式典を挙行之、講演会、祝賀会を開催しました。

第 1 号議案：平成 28 年度事業実施報告・決算報告及び監査報告について

第 2 号議案：理事の選任について《平成 29 年度役員》

会長 長谷川かよ子 (※ 新任)

副会長 ※菅井清美、※丸山正夫

常任理事 遠藤春枝、※山崎和美、高杉陽子(事務局長)

理事 五十嵐由利子、神藏勝雄、吉田正之、
若槻良宏、※池山純子、※米山幸子、
※高橋昌子、※山本初子、※山路ムツ子

監事 村山美恵子、※齋藤ひさ子



通常総会において平成 29 年度役員紹介

第 3 号議案：平成 29 年度事業計画 (案) 及び収支予算 (案) について

退任役員

副会長：渡邊令子、石栗綾子

常任理事：本多満喜子

理事：富岡こずえ、齋藤ひさ子、
船山敏子、山本圭子、
木下誠子

監事：奥山浅治

ご尽力いただきありがとうございました！

退任のあいさつ

前副会長 石栗 綾子、渡邊 令子

平成 28 年度末で、副会長を退任させていただきました。会員はじめ事務局の皆様には大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

超高齢社会の中で高度情報化やグローバル化の進展等で、私たちを取り巻く社会状況の変化は激しく、賢い生活者を目指し消費者教育の重要性は益々高まっていると実感しております。50 年の歴史ある新潟県消費者協会の今後の発展を願って、皆様の一層のご活躍を祈念申し上げます。

新任のあいさつ

副会長 菅井 清美

皆様、こんにちは。今、そしてこれから、必要なものは何か。アンテナを張って、皆様とともに前に進みたいと思います。よろしくお願い致します。



副会長 丸山 正夫

この度は副会長に選任いただいたことは誠に栄誉な事ではありますが、反面大変な重責を感じております。不慣れではありますが、一生懸命努めさせていただきますので、よろしくお願い致します。



平成 29 年度事業計画について

1 新潟県消費者協会事業

- 消費生活に関する講演会・講習会
- 消費者情報「カラビナ」発行 (年 3 回)
- ホームページ運営
- 地域啓発事業 (中越、下越、佐渡)
- 自主調査や調査協力
- 電話相談
- 「消費生活ネットワーク新潟」への参画
- 行政や関係機関の審議会及び委員会等への参加

2 受託事業 (委託者：新潟県)

- 消費生活サポーター活動推進事業
 - 見守りの担い手となるサポーター養成
 - フォローアップ研修
 - 「消費生活サポーターだより」作成・配布
 - サポーター活動支援・啓発機会拡充
- 対象者層に応じた地域での消費生活講座
- 消費生活啓発講座コーディネート事業

活 動
テ マ

魅力ある消費者市民社会に向けて行動しよう！

～安全・安心な生活を支える仲間を増やし、輪を広げよう～

NEWS☆☆☆☆

設立しました！！

新発田市消費者協会

平成 29 年度より、新発田市消費者協会が新しく設立され、新潟県消費者協会の正会員となりました。新しいお仲間が増えてうれしいです。

これから一緒がんばっていきましょう！！



特定非営利活動法人

消費生活ネットワーク新潟 設立記念シンポジウム

平成 29 年 5 月 27 日(土)
新潟テルサ大会議室

本年 4 月、適格消費者団体の認定を目指す「消費生活ネットワーク新潟」が、特定非営利活動法人の法人格を取得し、記念シンポジウムを開催しました。

消費者委員会委員長河上正二氏の基調講演、適格消費者団体「消費者被害防止ネットワーク東海」の実践報告があり、市民や行政、弁護士、教員、当協会会員など各方面から 120 人の参加がありました。

この活動を推進する関東弁護士連合会より、「県消費者協会や新潟大学が構成団体になっており、このようにすそ野の広い組織は全国的にも珍しい。大いに期待する」とのお話をいただきました。

消費生活ネットワーク新潟では、活動を支える会員の募集と、情報提供の呼びかけを行っています。(当協会の長谷川会長が理事長を務めています)

◆関連記事 7 ページ◆

～開催のお知らせ～

くらしフェスタ中越 in ながおか

日時 平成 29 年 7 月 26 日(水)
10:00～14:00

会場 アオーレ長岡 ナカドマ
(長岡市大手通り 1-4-10)

ふるって
ご参加ください！

平成 29 年度

全国消費者協会連合会 功労者表彰者

(長年協会活動に、ご尽力いただきました)

- 長岡市消費者協会 大橋 操 さん
 - 村上市消費者協会 伴田 美智子 さん
- おめでとうございます！

来年度の全国消費者協会連合会総会は、
新潟市で開催されます

『幸せの黄色いレシートキャンペーン』

ギフトカード贈呈

消費者情報 150 号でもご紹介したように、昨年 10 月から当協会も、イオンで行っている「幸せの黄色いレシートキャンペーン(右記※参照)」対象団体となっています。

今回、通常総会の前に、イオンリテール(株)北関東・新潟カンパニー様より、5 か月分 75,000 円のギフトカードをいただきました。ギフトカードは、正会員の 17 団体で、活動に役立つ商品に換えさせていただきます。

当協会の BOX にレシートを入れていただいた皆様、ありがとうございました！



※イオンで行っている社会貢献活動で、毎月 11 日「イオン・デー」の黄色いレシートを、店舗に設置してある地域のボランティア団体名が書かれた BOX へ投函すると、レシートの合計金額の 1% がその団体に寄付されるものです。

新潟県消費者協会 設立 50 周年記念事業報告

平成 29 年 4 月 25 日（火）万代シルバーホテル 5 F 昭和の間・万代の間

「新潟県消費者協会設立 50 周年記念式典、記念講演会、祝賀会」が、200 人近いご出席をいただき、盛大に開催されました。

来賓に米山隆一新潟県知事、長見万里野全国消費者協会連合会会長、県内消費者行政担当者、当協会の団体賛助会員、個人賛助会員、元役員の皆様をお迎えし、現在活躍されている正会員各団体の皆様にも多数出席していただきました。

また、岡村和美消費者庁長官をはじめ多数の方から祝辞、祝電を頂戴しました。

和やかな雰囲気の中で、50 周年の歩みと活動をあらためて心に刻み、次の一步に繋げる節目の記念事業となりました。ご協力、ご出席いただいた皆様にご心より感謝申し上げます。

式典

記念式典では、お二人から祝辞をいただきました。

米山知事の「私も協会設立と同じ昭和 42 年生まれ」との第一声に、緊張していた会場が一瞬に和みました。消費者協会の活動は、「よりよい社会を創っていく上で重要であり、今後の活動に期待しています。」と温かいメッセージをいただきました。

長見会長は、当協会の設立当初からの活動をよくご存知で、協会の消費者目線の商品開発や消費者意識調査、各地域での独自の活動などについて高い評価をいただき、新潟県消費者協会の今後の活動と発展に期待しますと述べられました。



米山隆一 新潟県知事



全国消費者協会連合会 長見万里野会長



映像でみる新潟県消費者協会



最後に、県協会と 16 の正団体会員の活動を紹介する「映像で見る新潟県消費者協会」を上映しました。会場では食い入るように映像を見られる方も多く、各団体の多彩な活動の数々に、あらためて会員の活動にかける強い気持ちや、地域における協会の存在意義を感じられたようでした。

記念誌

設立 50 年の活動概要や思い出の写真、団体正会員の紹介、座談会など、編集委員が中心となり、1 年以上かけて制作しました。



感想

南魚沼市消費者協会 柴田 春並 会長

心に残る記念式典で、これほどのプログラムを企画、実行された実行委員会の皆様のご苦労に心から感謝申し上げます。

どれも素晴らしく思いましたが、「映像で見る新潟県消費者協会」が心に残りました。南魚沼市消費者協会の会員の皆さんにも見ってもらう機会を設けたいと思います。

講演会

地域を支えるこれからの消費者活動

講師：北川 正恭 氏（早稲田大学 名誉教授、同マニフェスト研究所顧問）



柔らかな語り口で、敗戦後から現在に至る「政治や経済、暮らし」についてユーモアを交えて分かりやすくお話していただき、あっという間の90分間でした。

講師は、四日市に近い出身で、四日市ぜんそく等の公害を身近に感じて育ったそうです。1960年代に日本の四大公害が発生し、1967年に公害対策基本法、1970年には公害関連14法案が可決され、翌1971年に環境庁の設置、2000年に環境基本法の理念にのっとった法律が成立。公害を克服して循環型社会に移行する流れが、法律制定を通して理解できました。

会場は、日本が戦後復興から高度経済成長を経て、バブルがはじけ、低成長時代に入る経緯を身をもって知る世代が多く、世相を反映する言葉、「巨人・大鵬・卵焼き、集団就職、ミニスカート、グループサウンズ」等の言葉が出てくると盛り上がりました。また、女性は戦争という大きな犠牲の上に参政権が与えられ、その後さまざまな権利が認められたと話されました。

高齢者が木の葉を料理の「つま」として出荷する新しい産業を起し成功した、徳島県の上勝町を紹介されました。既成の感覚から抜け出て、立ち位置を変えてお宝探しをしないと取り残されてしまうことや、経済成長の現状から脱皮して、消費者の考える力や意見を大事にし、リードして行ってほしいと述べられました。

（編集委員 山本ヒサ）

感想

長岡市消費者協会
住川耕二郎 会員

消費者問題を世相の変化・戦後の経済発展から楽しく解説されました。安全・安心・公正な社会には、消費者・事業者・行政が、お互いに緊張感を持った正しい情報交換が必要で、我々消費者団体の果たす役割は益々大きくなるとエールを送っていただいたと感じました。

祝賀会



新潟県民生活・環境部
丸山由明部長よりご挨拶



大勢ご出席いただきました



盛り上った祝賀会



会員による祝舞と吟舞



新潟県ハイヤー・タクシー協会高橋
会長からお言葉をいただきました



周年記念祝賀云

最後に子どもを事故から守るテーマソング「アブナイカモ」を楽しく踊りました



会員同士で親睦を深めました

感想

団体賛助会員 株式会社池田看板
池田 洋子 代表取締役会長

祝賀会では和やかに交流させていただきました。凛とした日舞に日本の女性の気品を感じました。「魅力ある消費者市民社会を目指して」過去50年、歴代の会長さんをはじめ役員の方々のご尽力の大きさに気づかされる会でした。

<p>柏崎市消費者協会 佐藤 清子会長</p> <p>来年6月、当協会では設立50周年を迎えます。今年度は記念誌や祝賀会の準備を会員の皆様からご協力を得て進めたいと思います。</p>	<p>新潟市消費者協会新潟支部 山崎 和美支部長 New</p> <p>例年同様の行事をしていますが、設定日や時間に配慮し、広報も会員以外の方々の目に止まる工夫をし、協会の認知度を高めていきたいと思っています。</p>
<p>南魚沼市消費者協会 柴田 春並会長</p> <p>遊休品の提供やリサイクル作品の講習、販売などで多くの会員の活動の場を作ります。また、個人では見学できない県内の施設や機関を視察します。</p>	<p>新潟市消費者協会新津支部 高橋 昌子支部長</p> <p>高齢化社会となった今、互いに助け合いながら生きる事の大切さを認識して活動しています。いつまでも元気でいられるように。</p>
<p>魚沼市消費者協会 米山 幸子会長 New</p> <p>今年も生活に密着した課題を取り上げ、市民の皆様にも有効な“特ダネ講座”の継続実施に力を入れ、楽しく活動を進めていきたいと思っています。</p>	<p>新潟市消費者協会巻支部 倉澤 タカ子支部長</p> <p>目標はこの秋開催の下越地区連絡会を成功させることです。巻地区ならではのおもてなしを企画。意見交換に加え、交流会ではバザーもあります。</p>
<p>十日町市消費者協会 金井 シゲ子会長</p> <p>長年に亘って不用品販売会を実施しています。残り「0」を目指すなど、さらに充実、発展させていきます。</p>	<p>新潟市消費者協会白根支部 西野 伸治支部長 New</p> <p>正しい情報の学習と発信ができる地域・消費者コミュニティにします。今秋は巻支部と一緒に下越地区連絡会を盛り上げます。</p>
<p>小千谷市消費者協会 川井 厚子会長</p> <p>「食品ロスアンケート調査」は継続して実施する予定です。2年間をかけて準備をしてきた「おぢやのおせち」を冊子にまとめます。</p>	<p>新潟市消費者協会豊栄支部 山岸 洋子支部長 New</p> <p>「賢い消費者を目指して、安全・安心な社会」「食と環境問題」「環境にやさしい暮らし」を目指し奮闘！「どんな行事も一致協力」まとめ最高です。</p>
<p>長岡市消費者協会 山本 ヒサ会長 New</p> <p>気持ちよくスムーズに仕事ができる環境作りを心がけ、達成感のある仕事の遂行と時代の要請に応えられる新たな使命を模索していきたいと思っています。</p>	<p>新発田市消費者協会 石井 陽子会長 New</p> <p>地球にやさしい環境への取り組みとして必要な食品を必要な時に必要な量だけ購入してもらう、食品ロスの削減活動をしています。</p>
<p>見附市消費者協会 遠藤 春枝会長</p> <p>年々会員が減少しています。協会のPRをしなければならないと思い「市民活動」の場で講座を実施しアピールしたいと考えています。</p>	<p>村上市消費者協会 梅田 久子会長 New</p> <p>映画「JUST EAT IT」とフードドライブの実施。長岡市生ごみバイオガス発電センター視察。食品ロスを考える講座が続き意識改革に期待。</p>
<p>三条市栄消費者協会 丸山 正夫会長</p> <p>会は平成9年に設立して今年で20周年を迎えます。来たる7月11日にはささやかではありますが、20周年記念式典を行う予定です。</p>	<p>佐渡市消費者協会 山本 初子会長</p> <p>食品ロス削減に向けて、17店舗にアンケートを実施したので、今後この運動を市民にどう広げ浸透させていくか、市と連携協議していきたいです。</p>
<p>五泉市消費者協会 山下 キミ子会長</p> <p>年々進歩する社会、情報過多となり正しく学ぶことの大切さを実感しています。協会の活動が重要と感じており、消費生活講座の実施に向け励みます。</p>	<p>※写真右上の Newは新代表の方々です。</p> <p>各地区の活動の積み重ねが新潟県消費者協会設立50周年を支える底力になっています。7人が新会長となりました。会長の皆様方には新風を吹き込んでいただくことを期待します。(編集委員 藤田純子・山本ヒサ)</p>

消費者トラブルキーワード

テレビショッピングでは、店頭と並んでいない商品やアイデア商品の使い方の実演や体験談、洋服の組み合わせを紹介するなどじっくり説明があり「良いな！」と思って見ていると、

『放送終了後、30分以内』の注文なら

- ★〇千円値引きで買えます
- ★あれもこれも〇個つけた特別セット
- ★残りわずか、あと限定××個です

そんな時、活躍の「適格消費者団体」

上記のようなテレビショッピングに、適格消費者団体である“埼玉消費者被害をなくす会”が、「30分以内に申込みをした場合のみ安い価格で購入できるかのような表示」の改善を申し入れました。すると、事業者から「放送終了後 30分以内限定という表現の廃止を検討する」との回答がありました。

適格消費者団体は、紛らわしい広告などを調査・検討した結果、改善が必要な場合は、事業者に申し入れをすることができるのです。

今後、放送でどの様に表現が変わったのか、関心を持って見てみませんか。（右下※参照）

適格消費者団体とは？

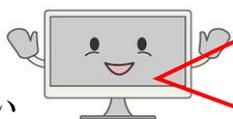
不特定かつ多数の消費者の利益を擁護する差止請求権を行使するために必要な適格性を有する消費者団体として内閣総理大臣の認定を受けた法人を「適格消費者団体」といいます。全国に16団体（平成29年5月現在）あります。

また、適格消費者団体のうちから新たな認定要件を満たす団体として内閣総理大臣の認定を受けた法人を「特定適格消費者団体」といいます。全国に1団体（平成28年12月現在）あります。

編集後記

新潟県消費者協会の設立50周年記念式典に出席しました。50年前の私は、消費者ということも考えず、家事・育児にと日々過ごしていました。消費者協会に入会し、先人達の活動を知り、考える消費者になりました。もっと会員が増えるといいな！という思いを込めて編集しています。皆様の感想が励みになります。（編集委員 中村文子）

テレビショッピング



放送終了後、
30分以内限定!!

など、消費者を焦らせて購入を煽る表現が多く見られます。

- ☆おまけをつけるなら「値引きしてほしい！」
- ☆今だけと言うけど「毎日同じような広告！」
- ☆「本当の商品価格はいくらなの？」
- ☆「本当に今だけ？」と

思ったことはないですか。



新潟でも 目指します

新潟にも、適格消費者団体を
目指す団体「特定非営利活動法人消費生活ネットワーク新潟」が設立されました。まだ、裁判はできませんが、申し入れができ、その内容や事業者の回答はHP上で公開されます。

これまで、表示がおかしいと思ってはどうすればいいのかわかりませんでした。消費生活ネットワーク新潟に情報提供することができるようになりました。

新潟県消費者協会も、消費生活ネットワーク新潟の一員です。

「これって おかしくない?!」と思うことは
「消費生活ネットワーク新潟」に情報提供しませんか！

<問合せ先>

特定非営利活動法人
消費生活ネットワーク新潟

TEL 025-285-8916

FAX 025-285-8917

Email ssnet@niigatakenren-coop.jp

※ お気づきでしたか？「30分間オペレーターを増やしています」に変更されています！

「食品ロス」削減に取り組みましょう！

外食編

聞いてみました！

外食(ランチなど)のお料理 食べきれないけど、持ち帰られる？

ランチを食べに行き、お料理が食べきれないことってありますね。もったいない！持って帰れば食べることできるのに、と思うことはありませんか？

最近持ち帰られるお店も増えているとか。そこで、新潟県内で実際はどうか、編集委員2人が柏崎市と新潟市で実際に調べてみました。

家族や友人と気軽に行くことができ、1,000円前後で食べられるお店で食事して、生ものや水気の多いもの以外を「食べきれないので持って帰れますか」と聞いてみました。さらに、行政の見解もお聞きしてみました。

持ち帰りできるお店は半数以上という結果

それぞれが5店ずつ、計10店に行ってみました。結果は、持ち帰りOKが7店、ダメが3店でした。

柏崎は5店全て持ち帰りOKでした。しかし要求があれば、応じるということで、お店が持ち帰りを推奨しているという

ことではありません。

OKという店の理由

- ・食品ロス削減に協力したいから。
- ・残った料理を捨てることにしたくない。
- ・家に持って帰ってでも食べようとしている気持ちに答えて。



ダメという店の理由

- ・その後の保存の仕方、食中毒の心配がある。
- ・今の美味しい状態で食べてもらいたい。
- ・お客に量等の声かけをして、残が出ないようにしている。
- ・どうしても味が落ちる。
- ・保健所が勧めていない。
- ・暖かくなってきたので食中毒を心配しているが、持ち帰りについての検討もしている。

食品ロス削減を進める市の考えは？

新潟市も柏崎市も、食品ロスについては県の方針（緑枠内参照）に沿って対策を練っているとのこと。持ち帰りについて否定的ではありませんが、具体的方針は出していません。まずは店側に、**小盛りメニュー**等作って、**残さない工夫**を勧めたいとしています。

保健所、「持ち帰った後は自己責任で」

新潟市と柏崎の保健所では、「お客は、お店側が持ち帰りをOKしてくれた場合、その後のことは自己責任だということを肝に銘じましょう」「それよりも、残らないようなお料理の注文を心がけましょう」との回答でした。

お店側から、残った料理の持ち帰りについて問い合わせを受けたら、「お勧めはしません」と答え、その理由は、「その後の保存の状態によっては食中毒などの心配があるからです。客が量を選べる工夫などして、残飯が減る努力をしてもらいたい」と話されました。お店には、「お客に、持ち帰った後の管理をしっかりすることを伝えてほしい」、持ち帰った人は、「別の用事等足さずできるだけ早く帰り、冷蔵保管や再加熱等を守ってほしい」とのことでした。



<参考>

県の方針

「残さず食べよう！にいがた県民運動」を展開

- ・食品ロス削減に向けた啓発
- ・実態調査など、NPOとの連携
- ・食品ロス削減に取り組む協力店募集
(外食での食べ残しを減らすために、**小盛りメニュー**を用意 **食べ残しを減らす呼び掛け** **ステッカー**を掲示 **食品ロス削減の工夫等**に取り組んでもらう)

国の各機関からも通達が出ています。

WEB『飲食店等における「食べ残し」対策に取り組むに当たっての留意事項』で検索

取材の感想

大事なものは 持ち帰りしなくてもよいように、食べられる量の注文をすること！

今回は宴会・冠婚葬祭などの場合を除いた外食という設定で取材してみました。

あるお店で、シェフの方が「作ったものを新鮮な今この場所で食べてもらうことを大切にしたい」と言っておられました。その気持ちもよくわかりました。持ち帰りについて、今はまだ、行政も積極的に勧めてはいないこともわかりました。特に保健所は持ち帰り食品による食中毒を恐れていました。まずは、残さず食べ切るといふ注文の仕方を大切にしたいものです。店側は少量メニューを用意し、消費者のニーズに応える努力も必要で、そのあたりの改善をお願いしたいと思います。

一方、お客が残した食物の多くが生ごみとして処理されると聞き、持ち帰りができれば、生ごみ減にもつながるので、残った食物を堂々と持ち帰れる習慣ができるようになればよいとも思いました。もちろん持ち帰り後は「自己責任」であることは自覚したいものです。

(編集委員 桜井喜美子・中村文子)